

県政ネットワーク

県政ネットワーク発行者
 発行人 田中ただみつ
 所在地 〒633-2166
 宇陀市大字陀
 迫間51-3
 電話 0745-83-1188
 F A X 0745-83-3272

平成30年6月議会で

一般質問

宇陀の課題を取り上げました。

- 1、うだ・アニマルパーク
- 2、みつえ高原牧場
- 3、長期的視野に立つ中和地域の道路整備について
- 4、道路や河川の維持管理
- 5、県立高等学校の適正化
- 6、「義務教育学校」設置に伴う施設改修補助金の新設を要望

これらに関して質問しました。

うだ・アニマルパークについて、夏場の暑さ対策の充実や、場内売店の充実、場内遊具等の充実が、レポート客を呼び、来場者を増やし発展を続けることにつながるので、今後も引き続き遊具等への投資を望みます。

このアニマルパークは、宇陀松山伝統的建造物群のある町並みの近くです。アニマルパークは場内にとどまらず、近隣の町並みの発展等、宇陀地域のまちづくりに役立つ施設とすることが約束されていました。松山地区におけるいくつかのイベントに協賛したり、場内でイベントが行われたり、関心をもって役割を担っていただいておりますが、入場者と町並みとが歩く動線として確立していません。個人的な見解を申し上げるならば、アニマルパークの南側からの出入り口が無いからだと思います。新しい動線を築き、アニマルパークと松山の町並み、そして、事業を進めつつある宇陀路大字陀道の駅が一体となって、地域振興の推進を果たしていただけるよう、ご努力をお願いします。

これからの高齢社会を考えると、犬とのかかわりを重視し、人間と犬との共生社会を築くための支援機関が必要と考えます。ある意味高齢者の方は弱者であります。自分の膝の近くで慣れ親しんだ犬がいてくれたら、それだけで心の平穏を抱き続けることができると思えます。

アニマルパークは、一見、田舎の穏やかな公園の出で立ちとして存在していますが、その中で目指すべきは、社会を支える役割を担う貴重な施設としての存在です。

パークの大きさや建物の数、形状設備から判断する外見的な充実と併せて、内容面である、動物の持つ魅力可能性を人間社会で貢献発揮できるよう推進する中心的な存在であっていただきたいと切望します。

そこで、南部東部振興監にお伺いいたします。

うだアニマルパークについて一つは30万人の来場者目標に向け今後どのように充実させていくのでしょうか。

また、動物との共生について今後どのように取り組まれるのでしょうか。

次に、みつえ高原牧場についてお伺いします。みつえ高原牧場は、平成13年に奈良県の畜産振興を図る目的で建設されました。それまで現在の、宇陀市大字陀にあった畜産試験場の大型動物を対象とした畜産振興のための施設の充実を図るため、御杖村に約百ヘクタールの用地を取得し、一大畜産生産基地を建設する計画でのスタートと伺っています。

地元住民の方々は、奈良県が新たな取り組みをしようと努力している、との認識はあるのですが、その具体的内容が明らかではないため、いつになれば具体化されるのかと期待と心配をされています。

御杖村における畜産の振興や牧場内における新しい取り組みによって、新しい雇用の創出であったり、村を訪れる人たちによる新しい消費の創出がなされたりするものと地元では期待を膨らませています。



そこで農林部長にお伺いいたします。

みつえ高原牧場の新たな活用について、計画策定を含め、今後の整備の見通しについてお伺いいたします。

次に、長期的視野に立つ中和地域の道路整備についてお伺いします。

奈良県の道路整備に関しては、ここ十年の間に幹線道路を中心として充実してきました。

県東部地域の道路網に関しましては、昭和の時代に改良された後、部分的な改良がなされていますが、大幅な柱となる建設計画が策定されていません。

「東西の幹線道路が名阪国道のみでよいのか？」と、思います。そして、新しい道路を建設するには即刻とはいかないと承知しつつも、オメガカーブの危険地帯を内包する名阪国道だけではなく、国道165号の抜本的改良を具体的な検討事項として推し進める時期が来たと考えます。

都市計画道路として4車線で建設された中和幹線は、供用されてから5年経っていますが、すでに渋滞箇所ができるほど利活用され、大きな役割を果たしています。

また、名阪国道の針インターチェンジから国道369号を宇陀市方面へ南下してきた車両が、国道165号を通らず、国道166号に迂回し桜井市のごみ処理場のある市道を走っています。本来、幹線道路として利用されるべき国道165号の役割は大きく、時代にあった交通網を整備することが必要です。

そこで、県土マネジメント部長にお伺いします。

「東西の幹線道路は、事故が多発するオメガカーブ区間のある名阪国道だけでよいのか？」と、思います。桜井市脇本以東の国道165号について、高規格化に向けたルート検討などの取り組みを進めることが必要だと考えますが、どのようにお考えでしょうか。

次に、県道上笠間八幡名張線の道路改良についてお伺いします。県道上笠間八幡名張線の整備は、狭隘な部分が残されています。

この県道上笠間八幡名張線では、山添村の毛原工区を平成31年度に部分供用すると供用宣言されていることもあり、宇陀市内の上笠間から下笠間の未改良区間のうち、上笠間から下笠間方面の約0.5キロメートル間の整備を地元地域の皆様が望んでおられるところです。今日まで、幾たびも先輩議員が機会をとらえて要望され、推し進めてきたこの路線の道路改良を行うことが大切だと思います。

そこで、県土マネジメント部長にお伺いします。県道上笠間八幡名張線の室生上笠間から下笠間方面の未改良区間について、早期に事業を進めるべきと考えますが、お考えをお聞かせください。

次に、宇陀地域では、訪れる方の観光は、寺社見物だけではなく、自然に親しみ愛でることも含まれています。蛍の鑑賞、メダカ街道、魚釣りや御杖村の清流での川遊び、親水施設を利用したの行楽も併せて行われている状態が日常的なものです。そのような道端や川の足元そのものが観光でありますから、観光地の草刈りに関して、地元住民の方々が県の作業に注目していることも確かであり、整備された場所ですがすがしく過ごすおもてなしをしたいとの、強い要望を語られることも理解できる場所です。適切な時期に施業をすることが効果的であり、そして、その願いが地元議会での論議の対象となっているところです。

また、この課題は、道路のわきの草刈りにについても同様の要望が出されています。歩道の両側から長く伸びた草は歩行者を横から濡らし、そのため歩道を歩かず車道を歩く人が出る始末です。宇陀地域では川や道路の延長が長く、維持管理を進めることに努力をいただいておりますが、格段の配慮をお願い申し上げます。道路や河川の維持管理については要望いたします。

次に、県立高等学校の適正化についてです。残念ながら、今日、人口減に悩まされ、少子の時代といわれるように、子供たちが少ない現実を見たとき、今回のこの県立高等学校適正化実施計画を受け入れざるを得ないと思っています。

宇陀市にある二つの高等学校は、両校とも大正時代に、今以上に学校への進学が難しく、進学してくる子供の人数が少ない時代に建学されました。個人の財産を提供しその設置に努力してきた方々の教育にかける情熱に、今回、答えることができなかったと誠に残念な思いであります。

しかし、先日の教育委員会の案によりますと、両校校舎を使った一つの高等学校として運用されるとなっています。普通科と総合学科、情報科を作り実学を行



うとされています。
教育長にお伺いいたします。
新たに設置される宇陀高校の総合学科においては、保育士の育成に向けてどのように取り組んでいかれるのでしょうか。

そして、今後、県立高等学校適正化実施計画をどのように進められるのでしょうか。具体的な進め方についてご説明ください。

理事者答弁

1 うだ・アニマルパークについて

【南部東部振興監答弁】

うだ・アニマルパークでは、開園以来、来園者の増加に向けて様々な取組を進めてまいりました。現在では、年間20万人以上の来園者を迎える人気スポットになっております。



今後もさらに多くの方々にご来園いただくためには、議員お述べの通り、パーク内施設の魅力の向上や周辺環境等の整備により、集客力を高めていくことが重要であると考えております。

このため、パーク内におきましては、夏の暑さ対策のほか、来園者のニーズも把握しながら魅力あるイベントや遊具等について研究し、集客に効果的と認められるものにつきましては、積極的に導入していく所存でございます。

また、アニマルパークも含めた宇陀松山周辺地区につきましましては、県と宇陀市との間で締結いたしましたまちづくり協定の対象地域でございますので、駐車場など周辺環境の整備や松山地区との連携につきましても、引き続き地元宇陀市と連携、協力しながら積極的に進めてまいりる所存でございます。

こうした取組によりまして、年間を通じて、多くの方々は何度も来たいと思っただけのようなアニマルパークにしていきたいと考えております。

次に動物との共生に関する取組でございますが、開園当初から動物への思いやりを深め、命の大切さを実感していただくことを目的とした「いのちの教育」を実施しております。例えば、小学生を対象に、動物も人と同様に感情や欲求があり、「いのち」があることを感じ、自分たちが動物に対してどのような責任を負い、果たすべきなのかを考えるプログラムを実施しております。

また、教育関係者等への研修会や校外学習での利用促進にも積極的に取り組んでいるところでございます。

今後も、「いのちの教育」をさらに充実し、その中で、特に人との関わりが深い盲導犬や介助犬等につきましても、その目的や役割を紹介するとともに、訓練士等をお招きし実際の訓練風景を見ていただくなど、来園者に動物との共生に対する意識を高めていただくような取組も検討し、順次実施していきたいと考えております。

2 みつえ高原牧場について

【農林部長答弁】

本県では、畜産振興方策を検討する中で、平成28年度から「みつえ高原牧場」の活用について研究して参りました。



併せて、平成28年9月には、「みつえ高原牧場」周辺地域を対象とした「まちづくりに関する包括協定」を御杖村と締結いたしました。以後、現在まで9回にわたり意見交換を行っています。

平成29年度に県では「みつえ高原牧場」について、畜産振興拠点として有力な地域であること、また、畜産業を核とした交流拠点として整備することで、御杖村及び県東部地域の観光拠点となりえることを踏まえ、施設や配置について、可能な限り幅広く検討を行い、整理しました。

更に今年度は、次の点について検討を深めているところです。第一点目は、県内畜産物の将来の生産見込み、あるいは生産目標における「みつえ高原牧場」の位置づけについて。二点目は、現在の観光動態を分析するとともに、将来の来場者の見込みを確定すること。次に、民間事業者・地元などの参入・協力の見込みについて。最後に、これらを踏まえた上で、整備する施設の規模等についてです。

現時点で、具体の整備スケジュールをお示しすることはできませんが、これらの検討結果を見極めた上で、御杖村とも相談し、早急に取りまとめたいと考えています。

3 長期的視野に立つ中和地域の道路整備について

【県土マネジメント部長答弁】

(1) 国道165号は、4車線の中和幹線と接続し、さらに、桜井市脇本までは脇本道路として4車線で供用しております。残る三重県境までは2車線の道路であり、この間に主要渋滞箇所である宇陀市萩原交差点については、平成24年度から交差点の北側と東側に右折レーンを設置する交差点改良事業を進めており、平成27年4月には東側の右折レーンを供用し、現在、北側の用地買収等を中心に進めているところです。



議員お述べのように、主要な東西軸である名阪国道については、オメガカーブが存在すること、大型車の通過交通が多いこと、事故や大雪の通行止めによる地域への影響などの課題があると認識しています。議員のおっしゃるとおりだと思います。

そういったなかで、東西軸のあり方については、奈良県だけでなく府県を跨ぐ広域的な課題であることから、名阪国道や西名阪自動車道、南阪奈道路などの最適利用や役割分担を含めて、慎重に検討を進める必要があると考えています。

国道165号は東西の幹線道路であるため、まずその機能やルート検討については、先ほど申しました、名阪国道も含めた東西軸のあり方を踏まえ、対応を考えて参りたいと思います。

(2) 県道上笠間八幡名張線は、宇陀市室生上笠間と三重県名張市を結ぶ道路で、奈良県の道路延長は、約7.7kmあり、1日の交通量は約500台となっています。

宇陀市域の約2.8kmのうち、約1.3kmは2

車線で整備されていますが、ご質問のありました室生上笠間から室生下笠間方面の約0.5km間を含む、残る約1.5kmの区間については、道路幅員が非常に狭隘で見通しの悪い状況だということは認識しています。現在、宇陀市域におきまして、奈良県において5箇所道路整備を進めており、また、宇陀市や地元、県議からも、当該路線も含め6箇所要望をいただいています。その中で道路事業は、選択と集中の考えのもと進めることとなりますので、当該箇所への対応については、他のご要望区間の利用実態、交通安全上の課題、沿線の土地利用やまちづくりの状況なども把握するとともに、事業中箇所の進捗状況等もふまえ、検討していきたいと思っております。

5 県立高等学校の適正化について

【教育長答弁】

現在、榛生昇陽高校に設置している福祉科は、介護福祉士の資格取得を主な目的としています。福祉科における専門教科の学習は、3年間で少なくとも25単位が必要であることに加えて、厚生労働省の養成施設としてさらに約30単位を必要としています。このため、高校3年間の限られた授業時間数の中で、他の教科を学習する時間が少なくなり、高校入学後に進路変更を希望する生徒への対応が難しい部分がありました。



榛生昇陽高校と大宇陀高校が統合して開校する宇陀高校には、総合学科を設置する予定です。議員お述べのように、福祉系列の中に高齢者福祉や障害者福祉、児童福祉コース等を設ける方法もございますが、現在は福祉系列や保育系列を置く予定で進めております。総合学科を設置することで、生徒の興味や関心に応じた学習系列を2年次から選択することが可能となり、以前より幅広い進路に対応することが可能となります。福祉系列では、介護福祉士の国家試験受験資格取得や福祉系の大学進学を目指すほか、介助犬等に関心をもてるような学習内容についても検討しています。また、議員お述べの保育士の育成については、保育系列において、現在両校で行われている「子どもの発達と保育」など専門教科の学習を行うほか、ピアノなどの音楽教育にも力を入れたいと考えております。そして、高校生によるピアノ教室などを開くことも計画しています。保育士の資格取得には、短大や専門学校、児童福祉施設での就労など様々なルートがございます。そんな、様々なルートに柔軟に対応できるような、教育課程を検討してまいりたいと考えています。今後のスケジュールですが、新しい高等学校学習指導要領によるカリキュラムが始まる2022年度までに、適正化を終える計画としています。東部に関しては、大宇陀高校は2021年度、榛生昇陽高校は2022年度から募集を停止し、2022年に宇陀高等学校を開校する予定です。1年生は全員榛生昇陽校舎で授業を受け、2年生から自分の選択した学科や系列に分かれてそれぞれの校地で学習をします。大宇陀高校校地については、耐震化を含めた学習環境の整備を行った後、2023年度から福祉系列、保育系列等の教育活動での利用を開始する予定です。

後記 前号から少し期間が空きお詫びします。ご了承ください。今回は一般質問だけの内容になりましたが、その他の県政報告は、次号に掲載します。

